

空襲の記憶を繋ぎ、平和な未来へ



1 班 氏名 篠田 帆南、五+嵐 優来、諏訪野 楓、市田 蒼祐、西野 颯介、江島 美晴、

日本は他国に比べて「平和な国」と言える。だが、この「平和」は、家族を失いながらも、希望を捨てず、「復興」に向けて行動してくれた先人たちの努力があったからこそ創られたこと。



辛い記憶をそのままにせず、「二度と起こさないため」に、

「この日を絶対に忘れないように」と、復興に力を入れる法律をつくらせている。このような行動に移せる広島の人々は本当にすごいと思った。



○広島平和記念式典
会場にいる全ての人が「平和」を願っていると思うととても感動した。



○灯ろう流し
世界各地から灯ろう流しに参加しているのを見ると、誰もが「世界平和」を望んでいることが感じられ、心が温かくなった。



広島平和記念資料館に行き、後遺症に苦しむ人々の写真を見て、胸がしめつけられたり、被爆者が書いた8%の物語を聞いて感傷的になってしまった。
どんな時も核を使おうとする考えには決まらないうち、平和は願うものではなく、一人一人が

つづっていくもの

だと感じた。



実際に広島を訪ねてみると、原爆による人々の被害は、私たちの想像をはるかに超えてきました。改めて、復興を続けてきた広島の人々は、素晴らしいと感じました。



今、私たちができることは、今回の派遣事業で学んだことを一人でも多くの人に伝えることだと思いました。今ある当り前の幸せや、平和を守ることに世界に発信していけば、いつか核がない世界が実現すること

繋がる

と考えました。

